

Wikiprint Book

Title: Trac リンク

Subject: SilverFrost - TracLinks

Version: 3

Date: 03/22/26 05:54:41

SilverFrost 目次

Trac リンク	3
TracLinks が使えるところ	3
概要	3
TracLinks の高度な利用	4
相対リンク	4
リンクアンカー	4
InterWiki リンク	5
InterTrac リンク	5
サーバ相対リンク	5
Trac リンクで空白文字をエスケープする	6
リンクの無効化	6
パラメータつきの Trac リンク	6
TracLinks リファレンス	6
attachment: リンク	6
comment: リンク	7
htdocs: リンク	7
query: リンク	7
search: リンク	7
ticket: リンク	7
timeline: リンク	7
wiki: リンク	8
バージョン管理に関連するリンク	8
source: リンク	8
export: リンク	8
log: リンク	9

Trac リンク

[TracLinks](#) は Trac の基礎となる機能です。というのも、[TracLinks](#) によってシステムのエントリ間 - チケット、レポート、チェンジセット、Wikiページ、マイルストーン、ソースファイルなど - で簡単にハイパーリンクすることができるからです。

[TracLinks](#) は通常、 type:id (id はアイテムの 番号や名前、パス) の形式で記述しますが、よく使われるコンポーネントについては、下の例のように表記を省略することもできます。

[TracLinks](#) が使えるところ

[TracLinks](#) が使えるのは:

- ソースコード (Subversion) のコミットメッセージ
- Wikiページ
- チケット、レポート、マイルストーンでの説明記述箇所

その他、[WikiFormatting](#) を利用可能なことが明示されているすべてのテキストフィールド。

概要

Wiki マークアップ	表示
Wiki ページ CamelCase, wiki:CamelCase	Wiki ページ CamelCase , wiki:CamelCase
親ページ [...]	親ページ ..
チケット #1, ticket:1	チケット #1 , ticket:1
チケットのコメント comment:1:ticket:2	チケットのコメント comment:1:ticket:2
レポート {1}, report:1	レポート {1} , report:1
マイルストーン milestone:1.0	マイルストーン milestone:1.0
添付ファイル attachment:example.tgz (現在のページの添付ファイル), attachment:attachment.1073.diff:ticket:944 (絶対パス)	添付ファイル attachment:example.tgz (現在のページの添付ファイル), attachment:attachment.1073.diff:ticket:944 (絶対パス)
チェンジセット r1, [1], changeset:1, (特定パス配下) [1/trunk], changeset:1/trunk	チェンジセット r1 , [1] , changeset:1 or (特定パス配下) [1/trunk] , changeset:1/trunk
リビジョンログ r1:3, [1:3], log:@1:3, log:trunk@1:3, [2:5/trunk]	リビジョンログ r1:3 , [1:3] or log:@1:3 , log:trunk@1:3 , [2:5/trunk]
diff diff:@1:3, diff:plugins/0.12/mercurial-plugin@9128:9953, diff:tags/trac-0.9.2/wiki-default//tags/trac-0.9.3/wiki-default または diff:trunk/trac@3538//sandbox/vc-refactoring@3539	diff diff:@1:3 , diff:plugins/0.12/mercurial-plugin@9128:9953 , diff:tags/trac-0.9.2/wiki-default//tags/trac-0.9.3/wiki-default または diff:trunk/trac@3538//sandbox/vc-refactoring@3539
ファイル source:trunk/COPYING, source:/trunk/COPYING@200 (バージョン 200 における), source:/trunk/COPYING@200#L25 (バージョン 200 における, 25 行目)	ファイル source:trunk/COPYING , source:/trunk/COPYING@200 (バージョン 200 における), source:/trunk/COPYING@200#L25 (バージョン 200 における, 25 行目)

Note: [wiki:CamelCase](#) の書式が使われることはほとんどありませんが、ページ名が [WikiPageNames](#) のルールに従っていないページ (一文字、アルファベット以外の文字、etc.) をリンクしたい場合には便利です。 [WikiPageNames](#) に Wiki ページ名へのリンクに関する特記事項が書いてあるので見て下さい。


```
[#Linkanchors ■■■■■■■■] ■■■■ [[#Linkanchors|■■■■■■■■■]]
```

[リンクアンカー](#) または [リンクアンカー](#)

Hint: セクションのタイトルにマウスオーバーしたときに、文字 '[¶](#)' が表示されます。これはそのセクションへのリンクですので、#...の部分のコピーすれば、相対リンクのアンカーとして使用できます。

ページ上に最初と最後に記載されている用語にリンクを作成するためには、'#/' または '#?' で始まる pseudo anchor を使用してください:

```
[#/Milestone first occurrence of Milestone] ■■■■
[#?Milestone last occurrence of Milestone]
```

[first occurrence of Milestone](#) または [last occurrence of Milestone](#)

リンクしたページで一致したらすべてがハイライト表示されます。デフォルト値のみ、大文字と小文字が区別されます。大文字と小文字を区別しない場合には、'/i' 追加してください:

```
[#/Milestone/i first occurrence of Milestone or milestone] ■■■■
[#?Milestone/i last occurrence of Milestone or milestone]
```

[first occurrence of Milestone or milestone](#) または [last occurrence of Milestone or milestone](#)

(Trac 1.0 以降)

このようなアンカーは、ソースブラウザでファイルの特定の行にリンクするのに非常に役立ちます:

```
[trac:source:tags/trac-0.12/trac/wiki/api.py#L127 Line 127] ■■■■
[trac:source:tags/trac-0.12/trac/ticket/roadmap.py#L47 Line 47]
```

[Line 127](#) または [Line 47](#)

(Hint: ソースブラウザに表示される行番号は、それぞれのライン上でアンカーへリンクします。)

ファイルが変更されるとリンクが古くなるので、代わりに疑似アンカー '#/' を使用するとリンクする時に便利です:

```
[trac:source:trunk/trac/wiki/api.py#/IWikiSyntaxProvider IWikiSyntaxProvider] ■■■■
[trac:source:trunk/trac/env.py#/ISystemInfoProvider ISystemInfoProvider]
```

[IWikiSyntaxProvider](#) または [ISystemInfoProvider](#)

InterWiki リンク

他に、プレフィックスを自由に定義して、他の Web アプリケーションのリソースをポイントさせることができます。プレフィックスと対応する Web アプリケーションの URL の定義は特殊な Wiki ページである [InterMapTxt](#) ページで定義されます。他の [TracEnvironment](#) へのリンクを作ることもできますが、より柔軟に他の [TracEnvironment](#) を指す特別な方法があることを覚えておいてください。

InterTrac リンク

[InterWiki](#) リンクと同じ要領で使用できますが、リンクする対象を他の Trac プロジェクトに特化した機能です。

ある Trac Environment に記述される、どんな形式の Trac リンクであっても、他の Trac Environment のリソースを参照することができます。他の Trac Environment のリソースを指すためには、Trac リンクのプレフィックスとして、リンク先の Trac Environment の名前とコロンを付与してください。このリンク先の Trac Environment は、名前そのものがエイリアスを、あらかじめ [InterTrac](#) に登録しておく必要があります。

[InterWiki](#) リンクに対する [InterTrac](#) リンクの利点は、Trac リンクの短縮書式 ({{}, r, # など) を使えることにあります。例えば、Trac プロジェクトへのエイリアスとして T が設定されている場合、Trac プロジェクトへのチケットへのリンクは #T234 と書くことができ、Trac プロジェクトへのチェンジセットへのリンクは [trac 1508] と書くことができます。完全な詳細は [InterTrac](#) を参照してください。

サーバ相対リンク

添付ファイルへのリンクのシンタックスは次に示すとおりです:

- `attachment:the_file.txt` は、現在のオブジェクトに添付されたファイル `the_file.txt` へのリンクを生成します
- `attachment:the_file.txt:wiki:MyPage` は、Wiki ページ `MyPage` に添付されたファイル `the_file.txt` へのリンクを生成します
- `attachment:the_file.txt:ticket:753` は、チケット `753` に添付されたファイル `the_file.txt` へのリンクを生成します

Note: 古い記法ではファイル名を最後に書いていました。この記法はまだ使うことができません: `attachment:ticket:753:the_file.txt`

添付ファイルページではなく、添付ファイルの内容に直接リンクしたい場合は `attachment:` の代わりに `raw-attachment:` を使用してください。

このリンクは HTML ドキュメントなどを直接指す目的では使いやすですが、この方法を使うためには `[attachment] render_unsafe_content = yes` (See [TracIni#attachment-section](#)) を設定し、Web ブラウザに内容を表示できるように設定しなければなりません。注意: この設定を行うのはファイルを添付するユーザのことを 100% 信頼できる場合だけにしてください。そうでない場合、サイトが [クロスサイトスクリプティング](#) 攻撃に晒されることになります。

[#export:links](#) を参照してください。

`comment:` リンク

該当するチケットの内部では、`comment:3` と書くと 3 番目の更新のコメントにリンクします。それ以外の場所であっても、チケットを特定することで、どこからでもコメントへのリンクが可能です:

- `comment:3:ticket:123`
- `ticket:123#comment:3` (Note: `#123#!comment:3` という書き方は間違っています!)

チケットの説明 (英語版では `description`) にリンクしたい場合、以下のように記述してください:

- `comment:description` (該当するチケットの内部)
- `comment:description:ticket:123`
- `ticket:123#comment:description`

`htdocs:` リンク

Trac Environment の `htdocs` ディレクトリ内のファイルを参照したい場合、`htdocs:path/to/file` と記述してください。[\(リソースディレクトリについて\)](#)

`query:` リンク

[TracQuery#UsingTracLinks](#) と [#ticket:links](#) を参照してください。

`search:` リンク

[TracSearch#SearchLinks](#) を参照してください。

`ticket:` リンク

エイリアス: `bug:`

通常使用される `ticket:id` 形式のほか、`id` の代わりにチケットのリストやチケットの範囲を指定できます。これはカスタムクエリの検索結果ビューへのリンクを生成します。検索結果は指定したチケット固定

例:

- `ticket:5000-6000`
- `ticket:1,150`

(Trac 0.11 以降)

`timeline:` リンク

タイムラインへのリンクは [ISO:8601](#) 形式で日付を指定して生成できます。日付の指定には、任意で時刻の指定を続けることもできます。この時刻は UTC 時刻で解釈されますが、UTC 時刻を使用したくない場合はタイムゾーンを続けて指定することで、ローカルタイムを使用できます。

例:

- `timeline:2008-01-29`
- `timeline:2008-01-29T15:48`
- `timeline:2008-01-29T15:48Z`
- `timeline:2008-01-29T16:48+01`

(Trac 0.11 以降)

wiki: リンク

[WikiPageNames](#) と、このページの [Trac リンクで空白文字をエスケープする](#) を参照してください。 [WikiStart@1](#) といった構文を使用することで、リビジョンを指定してページへのリンクを生成することが可能です。

バージョン管理に関連するリンク

複数リポジトリのサポートは、リポジトリ名称に対応したトップレベルのフォルダ配下のバージョン管理されたファイルへの仮想の名前空間をすることによって動作する。Trac リンクのシンタックス、 `/path` の指定では、リポジトリの名前から始める必要があります。省略された場合は、デフォルトリポジトリが使用されます。デフォルトリポジトリのトップレベルのフォルダ配下は、名前付きのリポジトリのエリアスの一つなので、逆に言えばデフォルトリポジトリのエリアスはいつでも作成することができます。(Trac の管理者に尋ねてください)

例として、 `source:/trunk/COPYING` はデフォルトリポジトリの `/trunk/COPYING` へのパスを指します。一方で、 `source:/projectA/trunk/COPYING` は `projectA` という名前のリポジトリの `/trunk/COPYING` へのパスを示します。もし、 `'projectA'` がデフォルトリポジトリへのエリアスであるか、 `''` (デフォルトリポジトリ) が `'projectA'` リポジトリへのエリアスであるならば、同じファイルを指していることとなります。

source: リンク

`aliases: browser:, repos:`

`source:/some/path` 形式のリンクは、パスがディレクトリを指している場合は、そのディレクトリを開き、それ以外の場合は最新のリビジョンのファイルの内容を表示します。

特定のリビジョンを指定してリンクすることもできます :

- `source:/some/file@123` - `file` のリビジョン `123` にリンクします
- `source:/some/file@head` - 明示的に `file` の最新リビジョンにリンクします

リビジョンを指定した場合はさらに特定の行番号にリンクすることもできます :

- `source:/some/file@123#L10`
- `source:/tag/0.10@head#L10`

さらに、特定の行をハイライト表示することもできます :

- `source:/some/file@123:10-20,100,103#L99` - 10 行目から 20 行目、 100 行目、 103 行目をハイライトします (0.11 以降)

マルチリポジトリ使用時は、リポジトリの名前が `source:` 以降のパスに統合されるので、 `source:reponame/trunk/README` のように記述するとリンクします。 (0.12 以降)

export: リンク

ブラウザでリンクをクリックしたときに、リポジトリ内をブラウザに表示するのではなく、ダウンロードを強制するためには `export` リンクを使用します。いくつかの形式が使用できます :

- `export:/some/file` - `file` の最新リビジョンをダウンロードします
- `export:123:/some/file` - `file` の リビジョン `123` をダウンロードします
- `export:/some/file@123` - `file` の リビジョン `123` をダウンロードします

リポジトリにチェックインされている XML や HTML

文書を、正しいスタイルシートと画像で表示する場合などには非常に使いやすですが、この方法を使うためには `[browser]`

`render_unsafe_content = yes` (See [TracIni#browser-section](#)) を設定し、 `Web`

ブラウザに内容を表示できるように設定しなければなりません。設定されていない場合、セキュリティを確保するため、そのファイルを Web ブラウザ上で表示せず、添付ファイルと同じようにダウンロードさせます。

特定のファイルの代わりにリポジトリのディレクトリのパスが指定されると、ソースブラウザはディレクトリを表示します (source:/some/dir と同じ)。

log: リンク

log:

リンクはリビジョンの範囲を表示するために使用します。最も単純な形式では、特定パスの最新のリビジョン群へのリンクを生成します。リビジョンを指定すること

- log:/ - リポジトリのルートディレクトリでの最新のリビジョン群
- log:/trunk/tools - trunk/tools での最新のリビジョン群
- log:/trunk/tools@10000 - trunk/tools での 10000 から始まるリビジョン群 (訳注: 10000 以前のリビジョン)
- log:@20788,20791:20795 - リビジョン 20788 と 20791 から 20795 までの範囲のリビジョンを表示する
- log:/trunk/tools@20788,20791:20795 - リビジョン 20788 と 20791 から 20795 までの範囲のリビジョンのうち、 /trunk/tools に影響したものを表示する

リビジョン範囲の短縮形式は以下の通りです:

- [20788,20791:20795]
- [20788,20791:20795/trunk/tools]
- r20791:20795 (ただし r20788,20791:20795 や r20791:20795/trunk は使用できません)

最後に、上記のすべてについて、リビジョン範囲の書式は x:y と x-y のどちらでも使用することができます。

マルチリポジトリ使用時は、リポジトリの名前が source:以降のパスに統合されるので、log:repos/branches や [20-40/repos] のように記述するとリンクします。

See also: [WikiFormatting](#), [TracWiki](#), [WikiPageNames](#), [InterTrac](#), [InterWiki](#)